

The **健康応援隊!**

### 大腸がん検診について

日本人の2人に1人は、がんになり、3人に1人はがんで亡くなっています。がんは、正常な細胞が、がん細胞に変わることから始まり、その原因は細胞の老化といわれています。

がんで男女ともに増えているのは、大腸がんで、女性のがん死亡原因1位です。

大腸は食べ物を消化する管なので、食生活の影響を大きく受けます。肉食の多い、欧米型の食生活への変化が、大腸がんの増えた原因と考えられています。

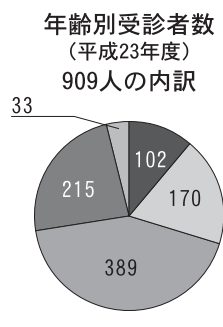
大腸がんは初期にはほとんど自覚症状はありません。大腸がん検診では、便に血が混じっているかどうかを検査する便潜血反応検査を行います。精度を上げるため2日分の便を調べることになっています。この検診で、症状が出る前に早期に発見をすることができ、陽性(潜血あり)の反応が出た場合は、「精密検査が必要」と判定され、出血の原因や出血場所の確認が必要になります。よく痔と勘違いして放置し、がんが見逃される場合があるので、注意が必要で

す。「陽性」＝がんというわけではないのですが、精密検査は必ず受けるようにしましょう。

左の表は町の受診者数で、年々増加しています。

平成21年度	854人
平成22年度	886人
平成23年度	909人

- 40才代
- 50才代
- 60才代
- 70才代
- 80才代



受診した方の年齢をみると、60歳以上の方が7割以上を占めています。がんのリスクは40歳代から高くなるので、若年者の受診が必要です。

町では、がん検診推進事業を実施し、40歳から60歳の5歳刻みの該当年齢の方に大腸がんの無料クーポン券を発行します。今年も7月8月にがん検診を実施します。健康管理のためにも、1年に1回は受診しましょう。

(健康福祉課 保健師)

## 学校コーナー

卒業に向け… 私たちに、何かできることはないだろうか…

### 五霞東小学校



本校の6年生、46名の子どもたちが、3月21日の卒業式を迎えるにあたって、手作りのコサージュを1人2個ずつ作りました。一つは、自家用に、もう一つは、東日本大震災で被災し、現在も不自由な学校生活を送っているという宮城県亘理郡亘理町立長瀬小学校の6年生に、一人一人の気持ちをコサージュに託し、メッセージを添えて送りました。

(児童の感想文)

コサージュを作っているときは、ずっと被災地のことを考えていました。被災地の一日も早い復興を祈り続けています。まだまだお互い長い人生があります。震災で亡くなってしまった方の分まで必死に生きましょう。そして共にがんばりましょう。

6年 齋藤哲也

私は、東日本大震災で被災した小学校の卒業式に使うコサージュを作りました。コサージュは作り方が難しかったけれど、被災した方々に使ってもらうためにがんばりました。長瀬小の6年生がコサージュを受け取ったときに少しでも元気を取ってもらい、よるこんでくれればいいと思います。

6年 関 香友子

ぼくは、コサージュを作るときに、被災地の方々が一秒でも早く復興することを願って作りました。被災地の被害はとても大きく、まだ辛い思いをしている方がたくさんいるようです。今回コサージュを作ることで、改めて被災地の方々とのつながりを感じることができました。これからも、節電などぼくができることは実行していきたいと思います。

6年 増山朋樹

ぼくは、卒業式に付けるコサージュを作りました。そして、ぼくたちは、そのコサージュを宮城県の小学校に贈ることになりました。そのコサージュには、メッセージカードも添えました。カードには「これを付けてよい卒業式にしてください。」や「一日も早い復興を祈っています。」などのメッセージを書きました。これを受け取ったときに、被災地の方々が喜んでくれたらうれしいです。

6年 渡辺大翔

